Vol. 37

桑原りさ

Lisa Kuwahara

スイーツオブリージュ バイ アサ&リサ代表・フリーキャスター

このクッキーが、私のメディア

にっこりマークが刻まれた可愛らしいクッキーが、目の前にある。口に入れるとほろほろと優しく崩れていきながら広がる、贅沢な風味。原材料の80%がオーガニック認証で、着色料や保存料などの食品添加物に加えて卵・牛乳・バター・ベーキングパウダーも不使用という徹底した素材へのこだわり。素朴さもありながら洗練されたまとまりのあるテイストは、絶対菜食主義＝ビーガンの概念を変えてくれるほど味わい深い。そして実はこのクッキー、購入毎に途上国や被災地に寄付が届けられるという、社会性の高い仕組みも備わっている。〝カラダが喜ぶ、世界が喜ぶスイーツ〟を掲げる『スイーツオブリージュ バイ アサ&リサ』。今回はその生みの親である女性の、力強くて類まれなストーリー。

「人の役に立つ人間に」

『スイーツオブリージュ』代表の桑原りさんは、メディアで活躍するフリーキャスターの顔も持つ。今までにテレビの経済番組や国際報道、語学番組などに多数出演し、そのほかにもラジオ出演やイベント司会など、一般的に華やかと言われるフィールドで勝負してきた。そんな桑原さんがクッキーを作る場所は2ヶ所あり、仲間がいる東京と身内が営む熊本の医院内に設けた工場だ。熊本の工場は少し大きめの家庭用オーブンや作業台が並ぶ決して広くはないスペースで、「エプロンと白い帽子に、マニキュアも取って、良い気分でいないと良いものが作れない気がして、音楽をかけながら」、製作に励んでいるという。

桑原さんは中学校までを熊本市で過ごした後、高校から東京へと進学。メディアの世界に憧れ、大学卒業後はフリーのキャスターとしてスタートを切った。仕事にも意欲的に取り組む日々の中、観光気分で訪れた初めてのN・Y・が、その後の転機となった地だ。「グラウンド・ゼロ（※1）に観光気分で行こうとしたら、友人から『感受性が強いなら、何かを感じるかも』『行くならお花を手向けてね』と言われた時に、ハッとさせられたんです。その時の私は国際問題に何の関心もなくて、テロのことも恥ずかしながら対岸の火事でした。メディアの世界で生きてきたのに、何の想いもないまま行くのは失礼に当たると考えて、別の場所に。それがユダヤ博物館でした」。そこでユダヤ人に対する生々しい迫害の歴史を知り、「宗教の違いだけで人が人を殺すことがショッキングで、生で迫ってくる理不尽さ」に大号泣。そしてそこにあったのが、杉原千畝（※2）夫妻の写真だった。「ユダヤ人から杉原さんへの感謝という意味で称えられていて、それを見て初めて日本人としてのアイデンティティを感じました。その時に青臭いけれど、私も何か人の役に立つ人間になりたいと純粋に思ったんです」。さらにN・Y・の街自体が持つパワフルなエネルギーにも魅了され、その瞬間に留学を決意した。

環境・健康・貧困に繋がるオーガニックとの出会い

その後の1年間は、仕事をこなしながら「ロケ中の隙間時間にリスニングをしたり、お風呂の中にも防水のガムテープに単語を書いて貼ったり」して猛勉強。努力の末、2006年から2年間、コロンビア大学国際関係大学院で国際問題を学んだ。「90ヶ国以上の人たちが集まる場所なので、そこは世界の縮図でした。幹事を務めた国連フォーラムで国連や外務省の人、そして私たち学生が一緒に活動する中で、『貧困や難民問題など、世の中の不平等や不均等をどうにかできないものか』という想いも芽生えました」。そして帰国後は再びキャスターとして現場復帰していたが、自分の居場所にも変化が起き始めた。「マーケットキャスターをしている時にリーマンショックが起こり、そのことがマネーゲームにしか見えなかったんです。その少し前まで貧困や難民のことに目が行っていたから、余計に。パッションを持って全力投球で取り組めないし、自分の力量が足りないことも感じて1年で区切りをつけました」。そしてその頃の日本では、ちょうど社会起業家が注目され始めた時期だった。しかし頑張っているNPOやNGOが資金的に苦労をしていることが多く、彼らを紹介してサポートするためにと自ら動いてラジオ番組を実現。そうやって自身が情熱を持てるものが少しずつ明確になる中で出会ったのが、オーガニックだった。「もとは番組の企画だったんですが、調べるほど環境や健康の問題につながり、奥が深いと感じました。それで国際オーガニックセラピストの資格を取ったんです。そこで『これを伝えたい！　真面目過ぎず柔らかく、皆さんに広く伝える手段はないかな』と考えているうちに親友との旅行先で寝転がりながら思いついたのが、起業してクッキーを作ることでした（笑）」。そしてここから、親友であり現在もN・Y・で栄養士として活動する宮下麻子さんと共に、〝世界に貢献するクッキー〟の開発を目指すことになる。

作る人、食べる人、その先も……

とは言え、「初めて実家で、母と一緒にクッキーを作ってみたら、それはそれは酷いものでした。母からも『美味しいお菓子屋さんは沢山あるし、みんな修行したり学校行ったりしてやっているのにとんでもない！　やめなさい！』って言われてしまいました」。しかし、ここで引き下がる桑原さんではない。「そこから1年かけて、グラム単位で配合を変えたり、材料もいろんなところから取り寄せたりして、毎日毎日作り続けました。朝ごはんも昼ご飯もクッキー。N・Y・の麻ちゃんにもリアルタイムで映像を見せて、『このとろみ、どう？』って聞きながら（笑）。でも研究しているみたいで、楽しかったんですよね」。

それと同時に、6種類のフレーバーごとに寄付を届ける団体を選定するなどして、クッキーの販売で社会貢献できる仕組みも構築。「コンセプトは一貫して、〝皆がハッピーになるクッキー〟。国際問題を学んだというバックグラウンドを持つ私だから、フェアトレードやオーガニックの素材を使った美味しいクッキーで、社会に良いことをしたい。そしてこのクッキーが〝オーガニック〟を伝えるメディアになって欲しいと。試行錯誤しながら味も改良し、ある時母に食べさせたら『なかなか良いじゃない！』って言ってくれて。それでようやく、2012年に起業しました」。

それから7年目となる『スイーツオブリージュ』。途中、キャスター業が多忙となりベースを落としたことはあるものの、地道に活動を続けてきた。「手ごたえを感じるのは、クッキーの缶を見て、『これ知ってるよ』『もらったよ』と言ってくれた時。私を知らない人が先にクッキーを知ってくれていると、嬉しいですね」。最近では全国誌にも取り上げられ、さらに認知度も高まってきた。しかしそこには、ジレンマもある。「オーガニックという希少な素材にこだわるほど、大量生産、安定供給が難しいんです。この経営規模だと販売できる数も限りがあります。でも一方で、このクッキーが広まれば広まるほど支援ができるし、食や途上国の問題を伝えることができる。そういう意味では世の中に少しでも出していきたいけれど、それはジレンマですね」。そんな理由から、現在の理想への到達度は20%だ。

「言葉を選ばずに言うとお金を稼ぐことって大変だし、キャスター業との両立も含めて難しさもあるけれど、クッキーを作る度に美味しいと言ってくれる人がいるとか、途上国で喜んでくれている子どもたちがいると思うとやめられない。その使命感が支えになっているから、これからも作り続けます」。さて、100%の理想が叶った時、桑原さんはどうなっているのだろう。「多分、リサおばあちゃんとアサおばあちゃんの2人、ハワイでクッキーを売っていますよ～！」と破顔一笑。桑原さんの志がギュッと詰まったクッキーの先に、これからも多くの笑顔が生まれていく。

※1＝2001年のアメリカ同時多発テロで標的となった、ワールドトレードセンター跡地
※2＝第2次世界大戦下、リトアニアの領事館で外務省からの指示に反し、多くのユダヤ人系難民にビザを発給し命を救った

Profile ／ Lisa Kuwahara

1977年、熊本市生まれ。桜木小学校、熊大教育学部附属中学校を卒業後、東京の成城学園高校、成城大学へと進みフリーキャスターに。2006年から米国コロンビア大学国際関係大学院に留学し、2008年帰国。キャスター業を続けながら、2012年に『スイーツオブリージュ バイ アサ&リサ』を創業。クッキーの購入は、オンラインストアより可。

「桑原りさセミナー 伝わるコミュニケーション力 Supported by ハリウッド化粧品」
日時：5月19日（日）10:30～13:00（ランチ会含む）
場所：レストラン『テラス』熊本市中央区水道町3-38
定員：20名　参加費：5,000円（ビュッフェランチ代込み）
申し込み：株式会社 Global Smile Japan　info@globalsmile-japan.com
TEL 090-9728-0358（松本）